第1回
有志ディスカッション
アンケート結果報告

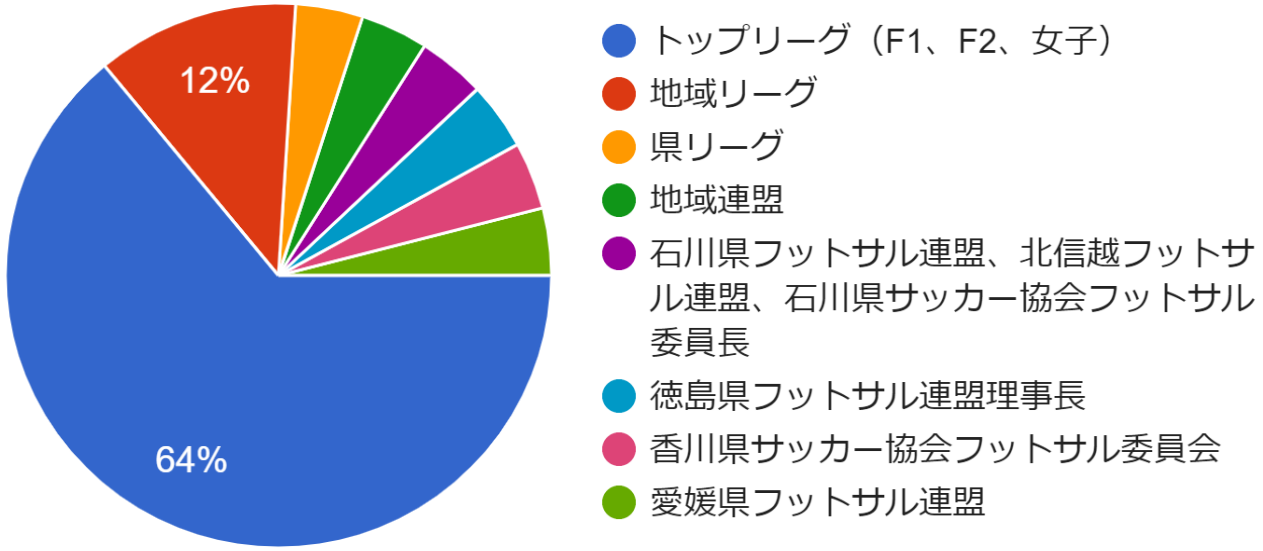
有志ディスカッション
開催の想い

アスリート委員会は2021年7月からアスリート委員会ワーキンググループとしてスタートし
そこからミーティングを重ね2022年6月より日本フットサル連盟アスリート委員会として承認されました。
私たち委員会メンバーは、私たちと同じ想いをもって新しいアイディアや意見を頂いたり、賛同してくれた方と一緒に活動出来ればと思っております。
その為にも、まずは私たちの活動や行動を知ってもらう事が不可欠だと思い今回のディスカッションを開催いたしました。

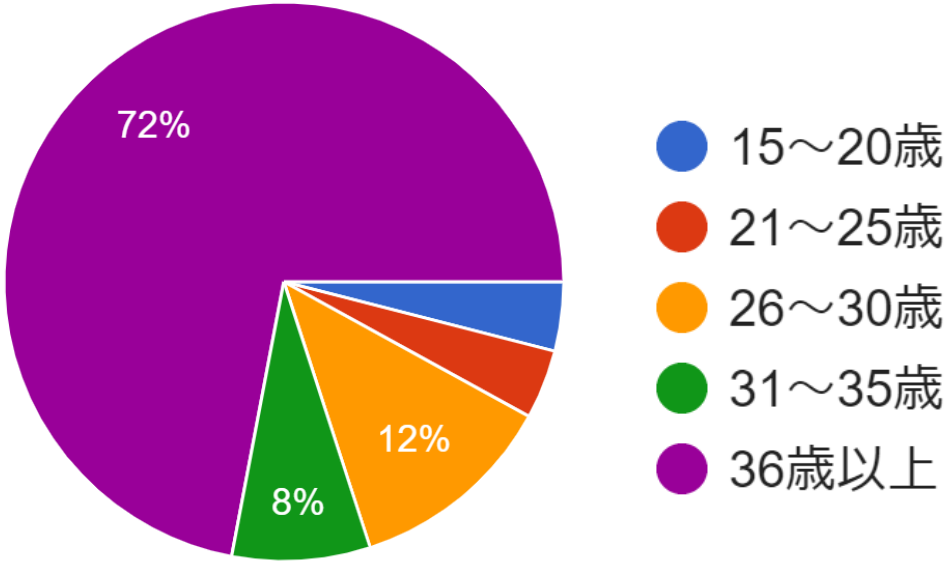
アンケート結果
目次

P4　Q1・Q２回答結果
P5　Q3・Q４回答結果
P6　Q3・Q４回答結果
P7　Q6回答結果
P8　Q7回答結果
P9　参加者のご意見
P10　情報伝達・連携
P11　組織
P12　アスリート委員会について
P13　社会貢献・普及活動
P14　その他のご意見
P15　ＥＮＤ

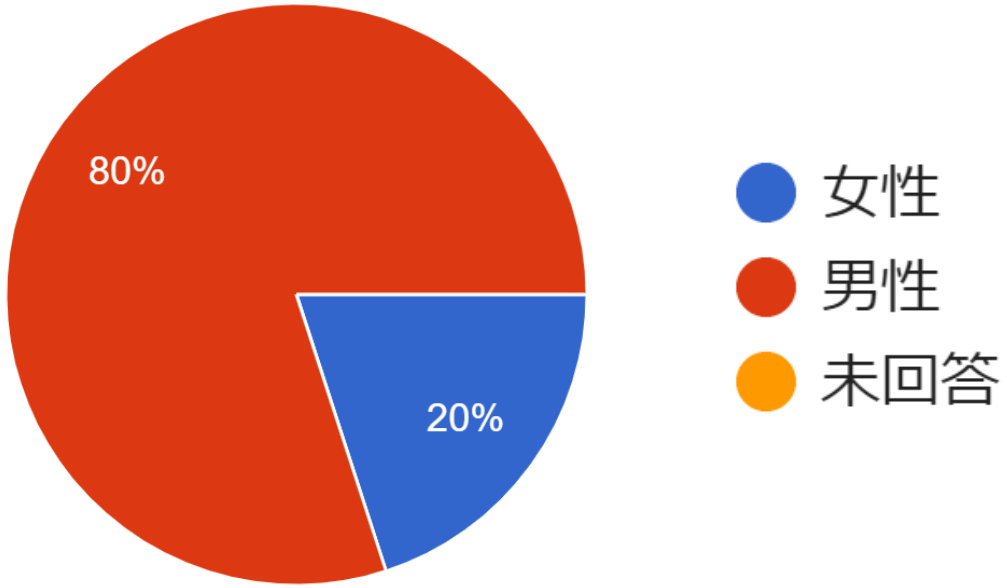
Q１，所属


12%
64%
トップリーグ（F1、F2、女子）
地域リーグ
県リーグ
地域連盟
石川県フットサル連盟、北信越フットサル連盟、石川県サッカー協会フットサル委員長
徳島県フットサル連盟理事長
香川県サッカー協会フットサル委員会
愛媛県フットサル連盟

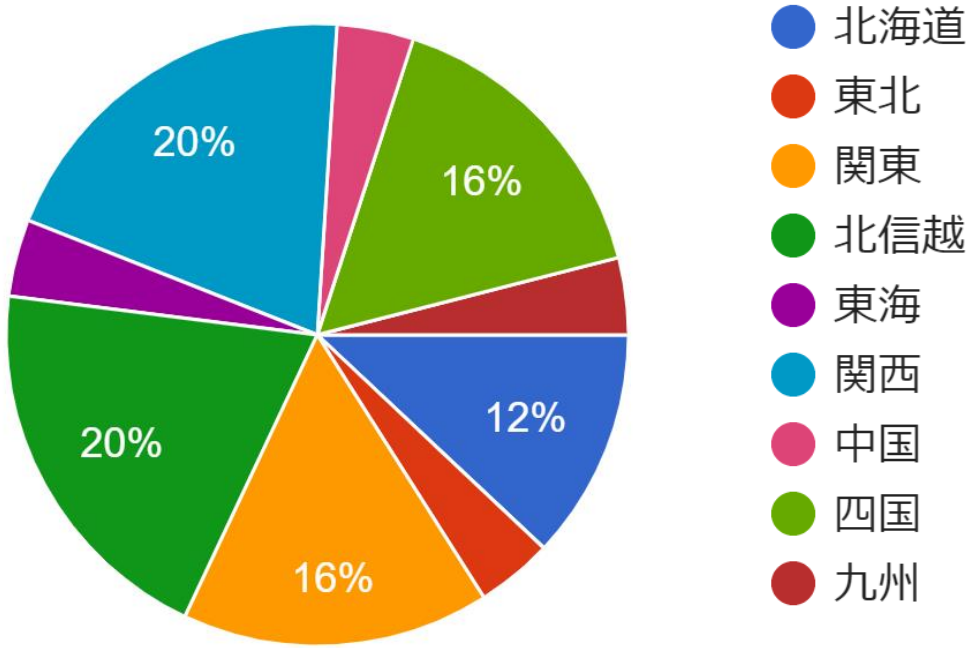
Q２，年齢


72%
12%
8%
15～20歳
21～25歳
26～30歳
31～35歳
36歳以上

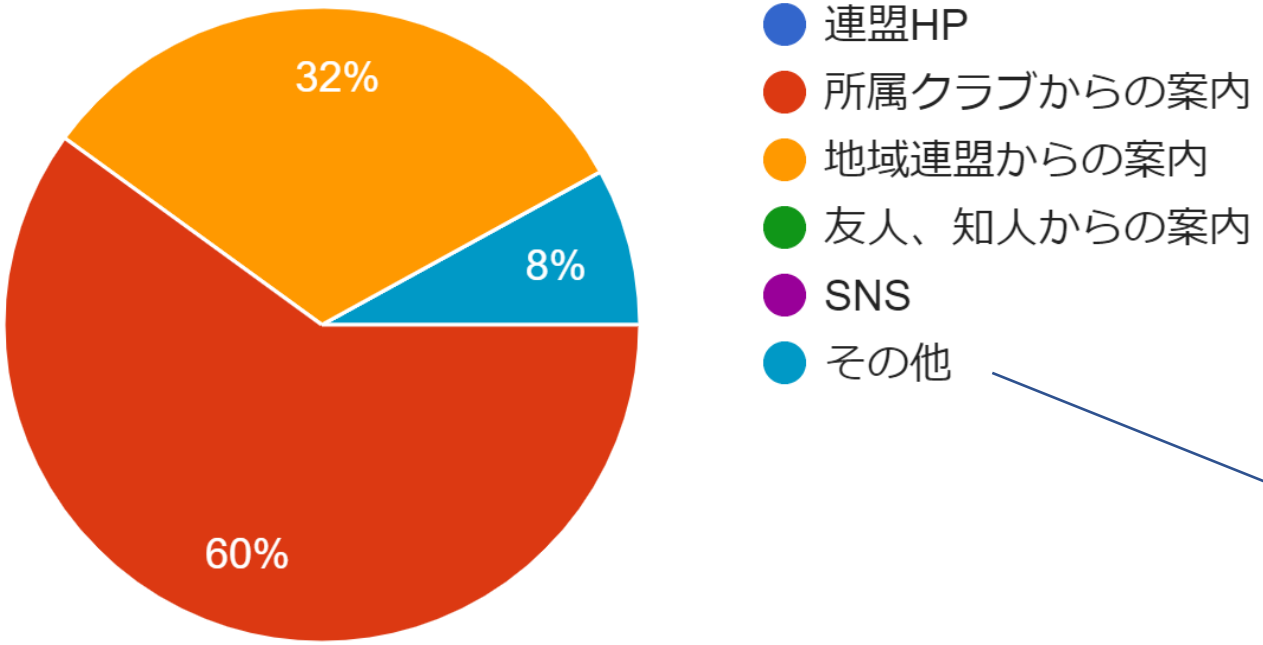
Ｑ３，性別



Ｑ４,活動地域



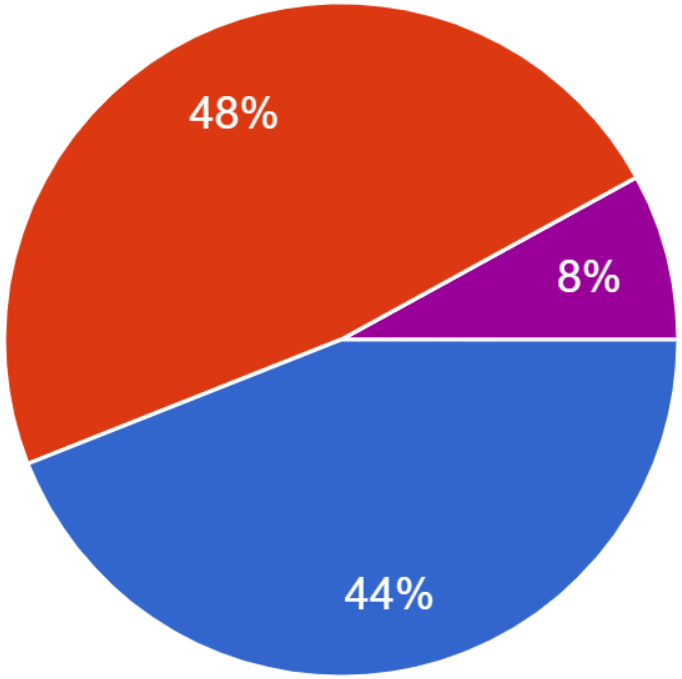
Q5，有志ディスカッションで開催を何から見聞きして知りましたか。



その他

・委員メンバーから直接案内
・アスリート委員会からのメール

Ｑ６，有志ディスカッションで説明した内容の理解度・満足度を教えてください

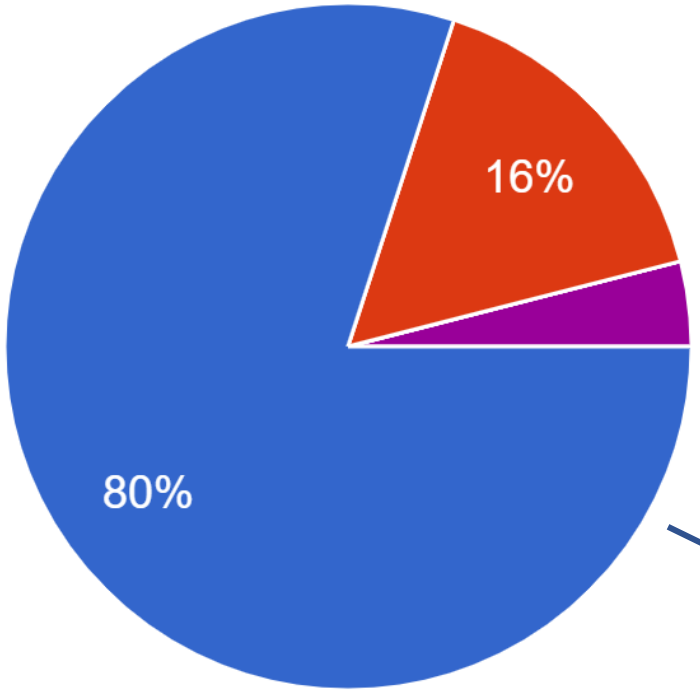


- 1,非常に分かりやすく満足した
- 2,どちらかといえば分かりやすく、満足した
- 3,どちらかといえば分かりにくく、満足できなかった
- 4,分かりづらく、満足できなかった
- 5,判断できない

3、4、5と回答された方、ご理解が難しく満足できなかった理由

・参加が遅れてきちんと理解できていないと感じた為（2名）

Ｑ７，またこうした有志ディスカッションのような機会があればご参加いただけますでしょうか

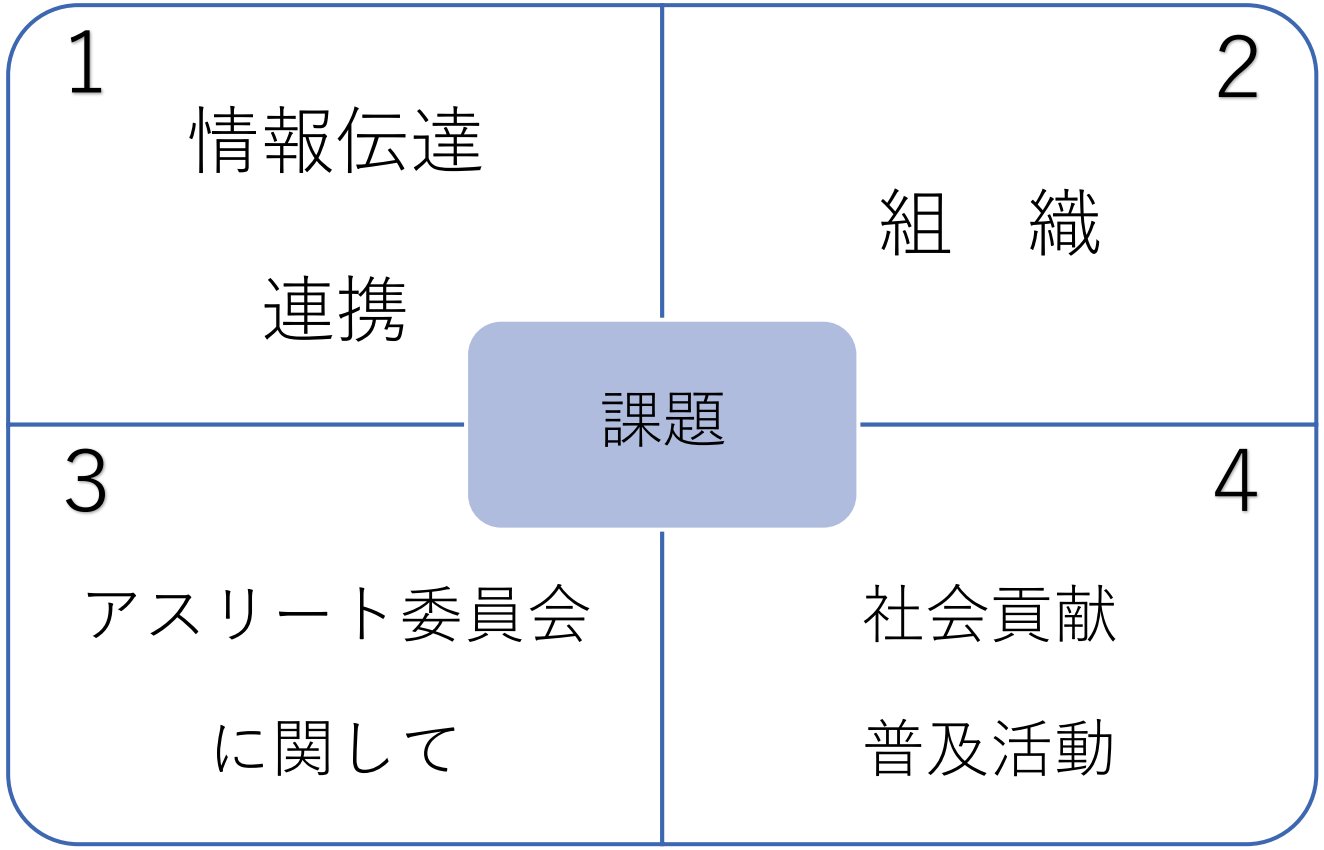


- また是非参加したい
- どちらかといえば参加したい
- どちらかといえば参加しない
- 参加しない
- 判断できない

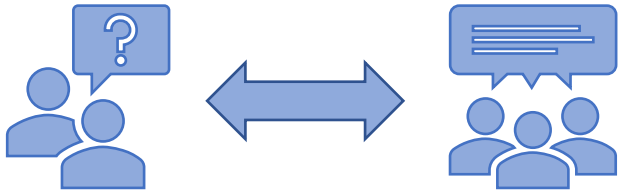
96%の方々が有志ディスカッションへの参加を賛同してくださいました！！

参加者のご意見

皆様のご意見をまとめた中でフットサル界が持つ課題が大きく分けて４つのグループから出ていいることが分かりました。



皆様のご意見を４つに分け
アスリート委員会としての考え・想いを
お伝えいたします。



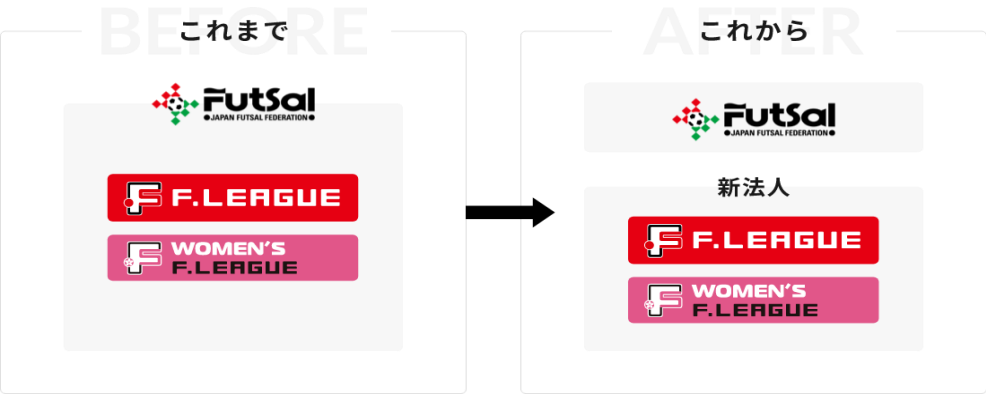
1、情報伝達・連携

頂いたご意見	アスリート委員会としての回答
➢ アスリート委員会の存在を知らなかった ➢ アスリート委員会の存在を知ってもらう旗揚げイベントを行うべき	A,今後の活動を通して認知していただけるよう努力します。
➢ 有志ディスカッション開催の連絡が遅い ➢ 選手に情報が下りるのに時間がかかっている	A,私たちも課題だと感じている部分です。ここを改善していくのもアスリート委員会の役割だと思っています。最善の方法を模索しながら改善してまいります。
➢ このディスカッションがどういうものか分からず選手に情報を下せなかった	A,私たちの活動を知って頂き各チームに信頼を持ってもらう・地域の方々と連携する組織だという事を理解してもらう機会を作っていきたいと思います。
➢ 有志ディスカッションの内容を知らず難しい印象を持った ➢ 事前に内容を開示すべき	A,今後の有志ディスカッションにて検討し、改善していく努力をいたします。

2、組織

頂いたご意見 → アスリート委員会としての回答

➢ 連盟とリーグの組織図が分からない



※一般社団日本フットサルトップリーグHPより抜粋

A,2022年よりFリーグと女子Fリーグは日本フットサル連盟より別れて新法人として立ち上がりました。
その為、今回のアスリート委員会の所属は日本フッ　トサル連盟として立ち上がったものとなります。
委員会のメンバーはFリーグ所属やOBとなりますが活動領域といたしましては日本フットサル連盟として活動してまいります。
地域のフットサルに関わる方々と共にフットサル界の発展の為に協力関係を作ってまいります。

➢ 現状の業務を回すので手一杯な状況であり、マンパワー不足
マネー不足は否めない

A,同じような問題意識を抱えていると思っています。その解決方法を共に探し進んでいきましょう。良いアイディアがあればアスリート委員会までどんどん提案して頂きたいと思います。

3、アスリート委員会に関して

頂いたご意見	アスリート委員会としての回答
➢ アスリート委員会はFリーグ（F1・2・女子）のみが対象なのか？	A,いいえ、日本フットサル連盟に関わる選手・OB・OGが対象です。 Fリーグ所属選手のみではなく、地域リーグ・県リーグ様々な選手が対象となります。
➢ 各クラブや地域の好事例を共有してもらいたい	A,良い事例はどんどん真似してもらえるように情報開示に努めてまいります。
➢ アスリート委員会が何をするのか具体的に打ち出して周知するべき	A,今後、活動内容等を開示できるよう努めます。
➢ 役割と責任を明確にした上で、主体的に行動出来るメンバーを増やして行くべき	A,その予定です。実行部隊を募集したり、来期のメンバーも決めていく予定です。
➢ 継続的にディスカッションの場を設けてもらいたい	A,今後も今回のような有志ディスカッションや意見交換の場を作ってまいります。
➢ プレー以外の活動にも積極的な選手の重要性を感じる	A,私たちも同じ思いです。同じ気持ちを持てる同志を集めてより良い委員会にしていきたいと思っております。

４、社会貢献・普及活動

頂いたご意見	アスリート委員会としての回答
➢ 地域イベントにトップリーグの選手が関わることで大会に付加価値が生まれる	A,「地域」と「アスリート」をつなぐ役割をアスリート委員会が担っていく予定です。
➢ 活動予算などどうなるのか事前に知りたい	A,事前に予算を組んで実行できるよう計画していきます。
➢ アスリート委員会の目指す社会貢献とは？	A,フットサルを通じたコミュニティーづくりを目指しております。
➢ 地域連盟とアスリート委員会で何が出来るのかアイディア出しをしたい	A,大歓迎です。アイディアを沢山いただけると大変助かります。
➢ アスリート委員会として登録者数の減少をどの様に捉えているのか？	A,連盟としては「競技」の普及と「競技者」の普及という２つの普及を考えておりアスリート委員会としては、選手・OBで「競技普及」と「競技者普及」を担う活動をしていきたいと思います。
➢ ・トップリーグへチャレンジしようとする若手や女子選手へのキャリア指導や支援が足りない,選手教育の場がない	A,アスリート委員会としてもその必要性を感じています。今後の活動でアスリートの為に何かできるよう努力してまいります。
➢ トップリーグの選手達も競技に専念できる環境ではないので、普及活動を行うには時間的にも体力的にも難しいのではないか	A,私たちも同じ思いです。同じ気持ちを持てる同志を集めてより良い委員会にしていきたいと思っております。

その他頂いたご意見

- 大会運営などで疲弊している連盟に対して地方創生などの観点からも手助けして欲しい
- フットサルファミリー全体で課題を解決していくべき
- 地域ごとに協力メンバーのリスト化などが可能になると良い
- 地方では女子のサッカーもフットサルも競技普及が進んでいない
- 女子選手のみならず指導者、マネージメント人材の育成も非常に重要
- 育成年代におけるアンチフットサルの意識がある
- 選手教育や研修をアスリート委員会に担って欲しい
- もっと現役選手としての価値を活かすべき
- 課題を明確にし、チーム外活動の優先順位も明確にするべき
- 女子の育成年代では大会が少なく選手を獲得できない
- 選手の意見を直接運営に伝えてもらった方がクラブとしても動きやすい
- 出来ることから実施していくべき
- 発言を促す場合は人数の制限も必要になるのではないか
- 各クラブ1名ずつ参加を要請するのはどうか

こちらのご意見に関しては私たちアスリート委員会としての領域外の内容等があり、私たちからの回答が難しいですが、現在のフットサル界において沢山の問題・課題があることが改めて認識できました。ありがとうございます。

アスリート委員会として初めての試みでありましたが、私たちの活動の
意味・意義の理解を深めていただける機会になったかと思います。
まだまだ、足りないところや発展途中でございます。
皆様の助けが間違いないく必要になって参ります。
今後も、フットサル界の未来の為に、そして何より現在フットサルに尽力くださっている
皆様の為にもご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

日本フットサル連盟
アスリート委員会一同

ＥＮＤ